

# 山桜の里 戸赤

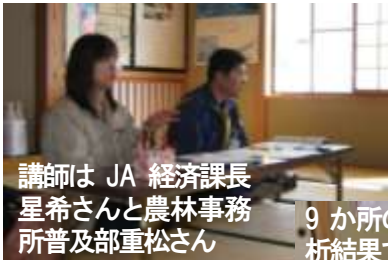
## 花豆

栽培

講習  
会

3月27日集会所で栽培者と講師13人の

### 大粒、多収量めざした勉強会



講師は JA 経済課長 星希さんと農林事務所普及部重松さん



9か所の土壌分析結果で勉強会



支柱ネットを垂直にし日光を当たりやすくした大粒がいつぱいあったなど経験交流

に書かれており、わかりやすく教えてもらうことができました。畝幅や株間、支柱の仕立て方、つるの整理など、いままでの経験を交換し、大粒のものを多量に収穫するための話し合いはにぎやかに行われました。今年には放射能の関係から木の葉を使えない注意も詳しく説明されました。

土壌分析の結果に基づいた花豆栽培の講習会が開かれ、施肥の仕方に工夫することができるようになりました。どの畑も一般的に肥料を持ちこたえるための堆肥は適度に入っており、稲ワラのすき込みは毎年行う必要がなく、苦土成分が不足していることなどが説明されました。畑ごとに渡された土壌分析結果表には、分析値の分布、改良目標値、肥料の使い方などが具体的に

### 山桜祭り事務局打ち合わせ

4月8日(日)  
午後6時30分  
やまざくら学校

村づくり実行委員会で今年案の山桜祭りの原案を検討するところになりました。昨年の分まで今年は元気にしたいものです。

冬の戸赤、初上陸です。  
雪が本当に降って、雪を見ずして『雪』という字が何だかよくなりました。  
外はめちゃくちゃ寒いです。建物の中は暖房がきいており、快適に過ごることができました。また来ます。

自然体験交流施設あそびの学校「やまざくら」感想ノートから

いつか夏に来てみたいですね。今日は初の冬、雪山で大阪出身の雪に慣れ合うにはなかなか、おもしろい体験でした。おかげで思い出がいっぱいあります。ありがとうございました！！

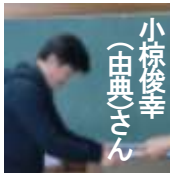
【木地の学習No.17】『伊勢参宮道中記』は、嘉永三年正月九日、森戸村保城から始まり、八縦～滝ノ原～山王峠～今市～江戸～伊勢参宮～水上詣、帰路は中仙道を通り高崎～沼田～尾瀬沼～桧枝岐～小綱木峠～木賊～湯ノ花を経て三月十七日に「目出度下向仕候」で終わっている。途中二月二十日から京都では案内者を雇い、二日間見物に時間をさいている。そこで目につくのは、白河院と吉田殿を訪れ、御守御酒銭を上げていることである。白川家とは白川伯王家とも称し、神祇官に属した家で下官でありながら、官の全権を掌握するほどの勢力を持った神道家である。木地根元地の君ヶ畑は白川家の、蛭谷は吉田のそれぞれの庇護のもとで対立を繰り返していたため、諸国の木地師達にとってもこの両家戸の因縁浅からぬものがあつた。二月二十五日木地師のメッカ蛭谷へ到着、ここで一泊。…翌二十六日は蛭谷より二キロほど離れたもう一か所の根元地君ヶ畑へ行き、小椋信濃守(君ヶ畑の1年神主)方で1泊。…高杖の菊地家には一通の手紙が伝えられている。世話になったときの礼状で、宛先は小椋信濃守様となっている。この手紙が同家に残っているのは礼状を出さないうでしまったのか、または控えとして残したものか理由はわからない。 奥会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) <つづく>



室井正司さん  
山菜入山券  
売上  
功労者表彰



星光美さん



小椋俊幸  
(由典)さん

- 1位室井正司さん 69枚
- 2位星光美さん 50枚
- 3位小椋俊幸さん 40枚
- 4位小椋哲雄さん 12枚
- 5位渡部利男さん 9枚



行政区と村づくり実行委員会の総会

24年度区総会

渡部利男 区長再選



素人ではできない危険な作業

出不足金は  
状況を見て判断



3月12日総会前の役員会

平成二十四年度  
戸赤区総会は三月十八日開かれ  
区長始めほとんどの役員が再選  
となりました。

業者に依頼し雪下ろし  
やまざくら学校の雪下ろしは三立土建(株)に依頼し二月二十四日実施しました。高所のトタン屋根に直接上って作業できる作業員が見つからず、検討したところ高負担が伴っても屋根破損の再発危険を回避する措置をとりました。



2月24日やまざくら学校の雪下ろし

渡部利男さん  
通院、高齢世帯、勤め状況など出不足となった理由により役員会等で判断することになりました。また、例年のとおり山菜券売上功労者五名に記念品を贈り労をねぎらいました。



高所作業車と歩道用ロータリー車を使用

補助事業が認められず

水車発電で情報発信の  
夢消える



福島県地域づくり総合支援事業(地域協働モデル支援事業)に申請した水車発電、山桜挿し木養成、自然探索会と写真コンテスト等の事業は採択されませんでした。

(花豆の学習[No.16]) ◎**土壌診断の目的** 作物の生育に必要な条件は主に次の6つです。①光、②水、③空気、④温度、⑤養分、⑥有害物質がないこと。このうち、水、温度、養分などは土壌を通して作物に影響を与えています。したがってこれらを好適な条件を保つには一にも二にも土壌の良し悪しにかかっているといえます。そしてこれを判断する方法の一つが土壌診断です。(南会津農林事務所農業振興普及部資料から) (つづく)

